

課長研修

DX推進と データドリブン経営の 基礎

— *Instructor Guide*

REFERENCE NUMBER

K26_04



PROFESSIONAL TRAINING SERIES

DX推進とデータドリブン経営の基礎

～現場から始めるデジタル変革と、データに基づく意思決定～

- 対象: 新任課長・課長候補
- 研修時間: 3時間

1 / 30

【開始前の準備 / 所要5分】

- 受講者を4～5名のグループに分けておく（可能であれば、DXやデータ活用の経験度合いが混ざるように編成する）
- A4用紙とペンを各テーブルに配布
- ワークシート（4種類）を人数分印刷しておく
- ケーススタディ用の資料（2種類）を人数分準備
- 付箋（1人あたり10枚程度）を各テーブルに配布
- プロジェクターまたはモニターの接続を確認（ダッシュボードのデモを行うため）
- 「今日は"DX"と"データ活用"をテーマに、管理者の皆さんが現場でどう推進していくかを一緒に考えていきます。技術の詳しい話ではなく、"マネジメントとしてのDX"に焦点を当てますので、ITに詳しくない方もご安心ください」と声かけ

本日の目標

この研修を通じて、以下のことができるようになります

1. DX（Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション）の本質を理解し、自部門の文脈で説明できる
2. データドリブン経営の考え方を理解し、KPI設計やデータに基づく意思決定の基礎を実践できる
3. 生成AIを含むデジタルツールの管理職としての活用戦略を描ける
4. 自部門のDX推進に向けた具体的なアクションプランを策定できる

2 / 30

【時間: 3分】

- 「管理者の皆さんは、"DX"という言葉が社内で日常的に聞いていると思います。しかし、"具体的に自分は何をすればいいのか"が見えにくいと感じている方も多いのではないのでしょうか」と問いかけ
- 4つの目標は段階的に積み上がる構造であることを伝える：「まず"DXとは何か"を正しく理解し、次に"データをどう使うか"の基礎を押さえ、"AIをどう活かすか"を考え、最後に"自分の部門で何をするか"のアクションにつなげます」
- 「今日の研修は技術者向けではなく、"管理職として知っておくべきDXリテラシー"にフォーカスしています。プログラミングやシステム設計の話は出てきませんのでご安心ください」と心理的ハードルを下げる

アジェンダ

0. オープニング・アイスブレイク (15分)
1. DXの本質を理解する - 「2025年の崖」のその後と日本企業の現在地 (20分)
2. 課長のDX推進リーダーとしての役割 (15分)
3. データドリブン経営の基礎 - KPI設計とデータの読み方 (25分)
4. 生成AI時代の管理職の活用戦略 (20分)
5. DX推進の組織課題 - チェンジマネジメントとDX人材育成 (20分)
6. セキュリティとガバナンス (10分)
7. 総合演習・ケーススタディ (20分)
8. まとめとアクションプラン (15分)

※途中、10分間の休憩を1回はさみます (セクション3終了後を目安)

※研修時間: 約3時間 (休憩含む)

3 / 30

【時間: 2分】

- 全体の流れを簡潔に説明
- 「前半でDXの考え方とデータ活用の基礎を学び、後半ではAI活用、組織マネジメント、そして実践演習に取り組みます。"知識のインプット"と"実践のアウトプット"のバランスを意識した構成になっています」
- リモート参加者がいる場合は、チャット機能やブレイクアウトルームの使い方を案内
- 「DXやデータ活用に苦手意識のある方も、今日の研修を終える頃には"自分にもできそうだ"と感じていただけるように進めます」と期待感を高める

アイスブレイク「あなたの部門のデジタル度は？」

【グループワーク】（所要時間：8分 / 4～5名1組）

テーマ：「あなたの部門のデジタル活用状況」

以下の5つの項目について、自部門の状況を5段階（1: まったくできていない～5: 十分にできている）で自己評価し、グループ内で共有してください。

1. 業務プロセスのデジタル化（紙の書類、ハンコ、FAXがどの程度残っているか）
2. データに基づく意思決定（勘と経験ではなくデータで判断しているか）
3. デジタルツールの活用（チャット、クラウド、プロジェクト管理ツール等）
4. 生成AI（ChatGPT、Claude等）の業務活用
5. メンバーのデジタルスキル

→ 1人1～2分ずつ、グループ内で共有してください

4 / 30

【時間：10分（説明1分＋ワーク6分＋共有3分）】

- 「正直に自己評価してください。低い点数が悪いわけではありません。現在地を知ることがDX推進の第一歩です」と伝える
- 生成AIの項目は2025-2026年時点でも「1」や「2」の回答が多いことが予想される。「多くの企業がまだ模索段階です。それが普通ですのでご安心ください」と補足
- 2～3グループに代表的な回答を発表してもらおう
- よくある回答例：「チャットツールは使っているが、まだ紙の稟議書が残っている」「データは見ているが、意思決定の根拠として使いこなせていない」「生成AIは個人的には試したが、部門としてのルールがない」
- 「皆さんの現在地が見えたところで、DXの本質から整理していきましょう」とセクション1への橋渡しをする

セクション1 — DXの本質を理解する

DX (Digital Transformation / デジタルトランスフォーメーション) とは

• **経済産業省の定義 (2018年DXレポート)**

「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品・サービス・ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」

• **DXの3段階:**

1. **デジタイゼーション (Digitization)**

— アナログ情報のデジタル化 (例: 紙の書類をPDF化する)

2. **デジタルライゼーション (Digitalization)**

— 業務プロセスのデジタル化 (例: 承認フローをワークフローシステムに移行する)

3. **デジタルトランスフォーメーション (DX)**

— ビジネスモデルや組織文化の変革 (例: データを活用した新たな顧客価値の創造)

→ 多くの日本企業は、まだ第1~第2段階にとどまっています

5 / 30

【時間: 5分】

- DXの定義を読み上げたあと、「つまり、DXは"ITツールを導入すること"ではありません。ビジネスのあり方そのもの、組織の文化そのものを変えていくことです」と強調
- 3段階の違いを身近な例で説明する:
 - デジタイゼーション: 「紙のアンケートをGoogleフォームにした。これは第1段階です」
 - デジタルライゼーション: 「営業日報をSFAシステム (営業支援システム) に統合し、データが自動集計されるようにした。これは第2段階です」
 - DX: 「蓄積された顧客データをAIで分析し、個別最適化された提案を自動生成できるようになった。これが第3段階、本来のDXです」
- 「管理者の皆さんに求められるのは、"自部門が今どの段階にいるか"を認識し、"次の段階にどう進むか"を考えることです」
- 想定される質問: 「うちの会社はまだ紙の書類が多いのですが、DXは無理ですか?」 → 「第1段階から始めれば大丈夫です。重要なのは、最終的にどこを目指すかのビジョンを持つことです」

DX 推進とデータ・ドリブン経営の基礎

ワークシート

【個人ワーク】自部門の KPI を設計する

ワークシート①

ステップ 1: KGI (最終目標) を書く

- 自部門が今期達成すべき最も重要な目標は何ですか？

- (例: 売上〇億円、コスト〇%削減、顧客満足度〇点 など)

ステップ 2: CSF (重要成功要因) を 2~3 つ挙げる

- KGI 達成のために、特に重要な活動・要因は何ですか？

ステップ 3: KPI (指標) を CSF ごとに 1 つ設定する

- CSF の進捗を測る具体的な数値指標は何ですか？

- SMART の条件を満たしているか確認してください

【グループワーク】生活 AI 活用アイデアソン

ワークシート②

テーマ: 「自部門で生成 AI を活用できる業務を洗い出そう」

ステップ 1 (個人: 2分)

自部門の業務の中で、生成 AI に任せられそうな業務を 3 つ以上書き出す

ステップ 2 (グループ: 4分)

グループで共有し、以下の基準で「今すぐ実行すべきもの」を 1 つ選ぶ

- 効果の大きさ (時間削減、品質向上)
- 実現のしやすさ (ツール、スキル、コスト)
- リスクの低さ (機密情報、セキュリティ)